

○富高保弘・大島一里

九州ではカブモザイクウイルスの basal-BR 遺伝集団が最近出現してきた

Tomitaka, Y. and Ohshima, K.: The genetic population of basal-BR of *Turnip mosaic virus* has been recently emerged in Kyushu.

九州におけるカブモザイクウイルス(TuMV)集団の遺伝構造および変動を明らかにするために、数年にわたり採集した 63 分離株について、第一タンパク質 (P1) および外被タンパク質 (CP) 遺伝子、さらに筒状封入体遺伝子の C 末端から核内封入体 α -プロテアーゼタンパク質遺伝子 (R12+Pro) までの塩基配列を決定後、近隣諸国の分離株と分子進化的に比較した。組換え部位の解析から九州分離株の約 63% が組換え体と思われ、それらは 10 の組換え体型に分けられた。一方、約 37% が非組換え体と思われ、それらはすべて basal-BR グループに属した。1999 年以前および 2000 年以降に採集した集団についてそれぞれ分子系統樹を作成したところ、2000 年以降のみの系統樹で basal-BR グループの集団がみられたことから、この集団は九州において最近出現し、また TuMV は比較的速いスピードで拡散することが明らかとなった。

(佐賀大農)

ウイルス・ウイロイド病

その他 分子進化

アブラナ科植物

カブモザイクウイルス

大島一里

ohshimak@cc.saga-u.ac.jp